

小児と接するときのコツ～子どもたちとの連携～

伊藤 麻衣
国立成育医療研究センター

誰にでも子ども時代はある。どんな時にうれしくて、どんな時に悲しくて、どんな時に頑張れただろうか。誰と喜びを分かち合い、どんな風に悲しいことやつらいことを乗り越えただろうか。どんな道を歩んで今ここに立っているだろうか。ひとつとして同じものはないそれぞれの道での様々な人々との出会いや出来事、環境に影響を受けながら私たちは成長する。私たちが医療の現場で出会う子どもたちも、まさにこの成長の真ただ中にあるのである。

チャイルドライフスペシャリストはこうした成長発達やストレスについての専門知識を基に、子どもや家族がストレスを抱えうる状況下において、ストレスを軽減し、困難な状況に彼ら自身が主体的に臨み対処することができるよう関わっている。このようにひとりひとりの発達やストレスへの対処力、大切にしていること等に合わせて関わるためには、子どもたちを聴き、対話し、対処すべき一連の経験や時間を共有すること、まさに言い換えれば連携することが必要不可欠である。

今回は、放射線治療における関わりを通して、子どもたちと連携するということの意味や治療に関わる医療スタッフとしての姿勢を今一度考えたい。